



NPO法人 テラ・ルネッサンス 理事・創設者

鬼丸昌也 Onimaru Masaya

1979年福岡県生まれ。立命館大学法学部卒。高校在学中にアリヤラトネ博士(スリランカの農村開発指導者)と出会い、「すべての人に未来をつくりだす能力(ちから)がある」と教えられる。2001年、初めてカンボジアを訪れ、地雷被害の現状を知り、「すべての活動はまず『伝える』ことから」と講演活動始める。同年10月、大学在学中にNGO「テラ・ルネッサンス」を設立。2002年、(社)日本青年会議所人間力大賞受賞。地雷、子ども兵や平和問題を伝える講演活動は年100回以上。近著に「僕が学んだゼロから始める世界の変え方」(扶桑社)がある。

テラ・ルネッサンス公式サイト▶<https://www.terra-r.jp/lp/>

こうして僕は
世界を変えるために
一歩を踏み出した①



すべての人に未来を ちから つくりだす能力がある

私たちの活動は大きく分けると4つあります。1つが地雷の問題です。学生時代からずっと取り組んでいました。カンボジアという国で地雷の除去支援をしています。貧しさが地雷の被害をもたらしているという現状があります。2つ目は、小さくて軽くて誰でも扱えるような小型武器で世界の多くの人たちが命を奪われている現状に対して、武器の取引を規制したり、監視したりする働きかけをすることです。

3つ目は、アフリカのウガンダやコンゴで、元子ども兵の問題に取り組んでいます。元子ども兵とは2つを指します。兵士だった子どもたちと、子ども時代に兵士にさせられた子どもたちです。子ども時代に兵士だったから文字の読み書きが覚えられない。仕事の技術が分からない。その人たちのために、職業訓練センターを運営をしています。こういった活動が現場での活動になります。

現場での活動はとても大事だと思います。困った人を助けてあげる。これはすごく大事なことです。でもそれは僕らのやりたいことの半分もやったことにはなりません。あくまで現場で何かに対応する、何かに取り組むというのは、問題に対処していることにしか過ぎません。僕らがやりたいことは、問題を解決することです。

例えば、子どもが走っていて石につまずいて転んで血が出たとします。その血は止めてあげないといけない。それと同じくらい大事なものは、その原因となった石を取り除いてあげたり、道路を舗装してあげたりすることです。舗装するお金がないのであれば、この道は危ないよ、と教えてあげることです。

問題が何で起こっているのか原因を明らかにして、取り除き、二度と同じような問題がこの社会に起こらないような仕組みを作ること。それが僕らにとっ

ての問題を解決することです。問題に対処、対応することと、問題を解決することは違います。

最後に4つ目が、このように見たり聞いたりすることを、皆さんに伝える「世界平和実現のための平和教育」です。そしてこれらの活動を通して、「すべての生命が安心して生活できる社会」を実現したいと努力してきています。



高校のときに、初めて海外に行きました。行ったのはスリランカという国です。ある団体のスタディツアーで行くことができました。そこで、A.Tアリヤラトネ博士とお会いしました。サルボダヤ運動というアジアで最大のNGOを創った人です。サルボダヤは現地という言葉で、「すべての目覚め」を意味します。博士にこう言われました。

「もし君が、何かをしよう、何かを変えようとしたときに、特別な知識や財産は必要ないんだよ。ただ、次のことだけ覚えておいてほしいんだ。それはね、どんな人にも、自分と自分の住んでいる地域の、所属している組織の未来をつくる“ちから”があるんだ。大事なことは、その“ちから”が何であるかを人と比べなくてもいい。自分の中で探さなくてもいい。全員にあることを信じなさい。もし、目の前で自分のやってきたことがダメになったとしても、また人は自分も含めて変わることができる。人は変われる。そのことを信じていることができるならば、きっと君は何でもすることができるよ」

そこからですね、僕の転落人生が始まりまして、こんな儲からない仕事に就くことになってしまいました(笑)

(第25号へ続く)